



居合道 だより

第175号



はじめに

先月、再びの緊急事態宣言が発令された。

世間は、政府の対応を後手後手に回っているとかコロコロ変わって一貫性が無いと批判に暇がない。

朝令暮改という言葉がある。方針などが頻繁に変わってしまうことだが、未知のウイルスと戦っている非常事態下では、そういうこともあり得ると思うのだが、臨機応変と評価してもらえないところに問題があるのではないのか。

メンツや体面にとらわれずあらゆる叡智を集結し、今最善と思う施策を発信し続ける。たとえ前とは違うことであってもである。

もちろんそこには国民第一の姿勢がなければならない。要は信頼関係の有無である。

こういう時期、なかなか思うように稽古が出来ない状況ではあるが、道場で

なくても稽古は出来る。自宅で、今まで教わってきたこと、目指していることを頭の中でやってみる、イメージトレーニングだ。次は刀を持たずに基本通りに1本目・前を力一杯抜いてみる。シャドー居合とでも言おうか。これで案外、今までの癖を治せたり、本質に気付いたりする。高段者にとっては、実際の稽古より有効なこともある。

指導するとき、もっと強く！と言う。しばらくすると、もっと力を抜け！と言う。

もっと早く！と言う。またしばらくすると、もっとゆっくり！とも言う。そしてもっとメリハリをとったり、もっとなめらかにと真逆のことを言ったりする。

状況に応じて、上達に応じて指導の言葉は変わっていく。門弟は迷わずにそれに従う。師はその時のことだけではなく、先を見据えた指導をするのである。これも師弟互いの信頼関係があってこそだ。

小生も師や先達から色々と教わってきた。腕で斬らずに腰で斬れ、腰で斬らずに足で斬れと。手の内で行く方向を示してやれば刀は勝手に走るとも教わった。これはかなり衝撃だった。また師は、巨巖を打ち砕くように斬れと言った。鎧武者を兜ごと真っ二つにとも。ある時は絹布を切り裂くようにとも言った。

そして師の晩年『俺はまだ出来ないが、、、』と前置きした後『***ように斬れ！』と言った。

師弟一体となって一つの目的に向かって進んでいった証である。

これが師の最後の言葉だった。

歳だけは師を超えてしまったが、不肖の弟子は未だに出来ないでいる。

(***は、皆さんにとっては大したことではないが、師の意思を汲んで伏せ字にしています。)

二月・三月の予定

3月7日（日）

福岡県居合道段位審査会全剣連

福岡市総合体育館

編集後記

この寒空の中、コロナが蔓延し、喘息持ちの私としては、ちょっと咳がでると皆さんからチラリと睨まれる。もちろんマスクはしているが、実際にウイルスだとあまり効果ないよなと思いつつながら.....。

今回の非常事態宣言は割と甘々なので、それが幸いして今のところ公共の体育館も時間制限を設けて使用できる。ちょっと8時までって根拠は？って言いたくなるし、1時間変わったからどうこうって問題でもない。感染は30秒ほどで完了すると聞いたことがある。各研究機関がいろいろ研究し発表しているが、面白いと思ったのは、「お茶でコロナが無効化する」という研究結果が発表されていた。1分間でと前置きされていたが、気になるときは1分間口にお茶を溜めておいたらいいのかもしれないとか適当なことを考えちゃいました。またペットボトルのお茶でも一定の効果があったというから驚きです。しかし実際に1分間やってみると（やったんかい！）意外と難しい。またインフルエンザでも予防にお茶でうがいを推奨している。その際は出廻らしてもいいそうです。

3月には昇段審査会が催される予定ですが、無理せず稽古に励んでください。

持病のある方は特に注意しましょう！

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第175号 令和3年2月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社 FEW

表紙の写真は令和2年の新年稽古会です。来年こそは皆で集まって稽古したいと願いを込めて！